

目的 起毛した繊維製品として、近年メリヤス生地を裏起毛して、冬のパジャマ等の日常着に用いられるようになってきた。これらは家庭洗濯の頻度が高く、洗濯による起毛部分に形態変化が起きると推定され、着心地を損ねたり、また保温性、通気性などの保健衛生的機能に影響を及ぼすのではないかと考えられる。そこで、裏起毛メリヤス地2種（綿56%/ポリエステル44% 平均起毛長6.9mm, アクリル39%/綿34%/ポリエステル27% 平均起毛長13mm）について、繰り返し家庭洗濯を行い、諸性能に及ぼす影響を調べた。

方法 20X20cmの試料を、起毛面の表裏が一定となるように筒状にして、繰り返し洗濯を行った。洗濯条件は、二槽式電気洗濯機（ナショナルN-3600 強水流 反転）、市販弱アルカリ性合成洗剤（濃度0.13%）、温度30°C、浴比1:30、洗濯9分、すすぎ3分2回、脱水2分である。洗濯前後の試料について、厚さ、密度、空隙率、保温性、通気性、透湿性、変退色、表面状態を観察測定した。あわせて未洗濯試料についてJIS L 1076, L 1018に基づきピリング性、収縮率を調べた。

この結果、どちらの試料も、未洗濯の場合はピリング、収縮率共に、変化が少ないが、繰り返し洗濯によつては、毛羽の乱れなど表面状態は著しく変化する。特に起毛長の長い場合や起毛部分を表にして洗濯を行った場合、表面状態の見かけの悪化は著しい。しかし、布の厚さ、空隙率、保温性は洗濯回数増加と共に若干の低下が見られるが、あまり影響を受けないことがわかった。